

	事業名	事業計画	事業目的	財源
1. ボランティアコーディネーション事業				
1	ボランティア活動希望者への活動のマッチング	ボランティア活動希望者への相談対応と活動へのマッチングの実施。	「ボランティア活動をしたい」という人に活動の場を紹介することで、意欲を持つ市民の社会参加を促進するとともに、ボランティアに協働を求める人や組織と市民とのコーディネーションを進める。	大阪市受託
2	ボランティアの応援を求める個人、団体、施設等へのコーディネーション	・ボランティアの応援を求める個人、団体、施設等への訪問、面談、各種関係機関との連携。 ・受け入れ団体等へのボランティアマネジメントのアドバイス、相談など。	制度では対応できない等ボランティアの応援が必要な個人に寄り添い、相談者の自立や社会参加等を支える。また、施設や団体などでボランティアを募集する際のサポートを行う。	大阪市受託
3	ケース共有会・ケース検討会	ケース共有会）相談対応職員間で対応内容について共有を行い、相談対応力および対応の質の向上を図る。 ケース検討会）専門家のスーパーバイズを受けることで、相談対応力および対応の質の向上を図る。	職員間で対応内容について共有を行い、専門家のスーパーバイズを受けることで、相談対応力および対応の質の向上を図る。	大阪市受託
4	ICTツールを活用した情報発信	・ボランティア情報を要約し、お勧めコメント及び詳細ページURLにリンクできるように編集してTwitterで発信する。また、活動時のポイントを発信し、NPOのツイートをリツイートする。 ・令和3（2021）年度に制作した、ボランティア関心層・潜在層が気軽に視聴できるボランティア入門動画（短編4種類）を引き続きホームページで公開し、SNS等で広く周知し、講座等の機会に応じて活用する。ボランティア活動に少しでも興味・関心を持った人が気軽にボランティア活動に関する基礎知識を得られるよう、環境整備および情報発信を行う。 ・ボランティア活動のイメージが持てるよう、ボランティア活動の様子を撮影したボランティア活動紹介動画を制作する。	各SNS媒体の特性、ユーザーのニーズに応じた最適な媒体を使い分け、ボランティアに関する情報の発信を行う。	大阪市受託
5	【行動宣言】多様な関係機関とのネットワーク構築	大阪市内の社会福祉協議会やテーマ型NPO、専門機関等のコーディネーター同士が情報共有や日常業務での連携ができるネットワークの構築。	よりきめ細やかな相談対応や適切なボランティアコーディネーションが行えるよう、また、関係機関と平常時から災害支援、防災に関する課題を共有し、実災害時に各区に設置される災害ボランティアセンターの運営支援や被災地域のスムーズな復旧・復興に向けた活動を協働で行えるよう、市内の社会福祉協議会やテーマ型NPO、専門機関等のコーディネーター同士が情報共有や日常業務での連携ができるネットワークを構築する。	大阪市受託
6	はじめてのボランティア説明会	・1回90分程度、日中・夜間・週末等に分けて開催。 ・対象を絞らない説明会に加え、学生向けやシニア向けなど対象を絞った説明会も実施する。 ・毎月第3土曜日は対面開催にして、説明会後に「ゆるボラ」メンバー交流会を開催することで、説明会参加者の「ゆるボラ」への参加、ボランティア活動への参加を促す。	ボランティアに関心があるがどのように始めたらよいかわからない人や、まずは学びたいという人が、自分に合った活動を見つけるきっかけをつくり、参加のすそ野を広げる。	大阪市受託
7	多種多様なボランティア活動メニュー開発	・KVネット登録団体（約680団体）およびパートナー登録団体（約120団体）に多様なボランティアプログラムに関するアンケートを実施する。 ・アンケート回答をもとに団体にヒアリングを実施し、多種多様なボランティアの受け入れ可否や活動内容等について聞き取り、活動内容をメニュー化する。 ・新たに開発したい思いがある団体には、プログラム開発支援を行う。	時間の制約がある、コミュニケーションが苦手等、ボランティア活動を希望する人々の多様なニーズに応じた多種多様なメニューを開拓し、誰でも気軽に活動できる環境をつくることで、ボランティア参加のすそ野を広げる。	大阪市受託
8	社会課題を知るための基礎講座「90分 de ○○REAL」	社会課題を知るための入門講座「90分 de ○○REAL」の企画・運営。	活動に一步踏み出すまでには至らないが講座参加なら可能という人を対象に、活動希望者の活動への意欲の向上、潜在層の活動に向けた後押しやきっかけづくりを行い、ボランティア活動に関わるハードルを下げる。	大阪市受託
9	ゆるボラ（ゆるやかにつながるボランティアサークル）	「ゆるボラ（ゆるいボランティア）」の運営（ボランティア体験プログラム、交流会等の実施）。 ・ボランティア活動希望者や潜在層を中心に、サークルに誘い、メンバー登録を促す。 ・月1回程度のペースで、ボランティア活動体験を実施し、メンバーに参加を呼びかけることで、ボランティア活動への参加を支援する。活動後もコミュニケーションをとり、メンバー間の交流会開催など、ゆるやかなネットワークづくりを図る。	ボランティア活動や社会貢献活動等に興味・関心がある人の、活動に参加するハードルを下げ、安心して活動ができるよう、ゆるやかにつながるサークル（コミュニティ）を運営する。	大阪市受託
10	ボランティア受入側のボランティアコーディネーション力の向上	・ボランティア受入側のボランティアコーディネーション力向上のため研修・講座の実施。	NPO・施設・地域組織等のコーディネーター（リーダー層）を対象に、ボランティアコーディネーション力向上研修・講座を実施する。	大阪市受託
11	災害ボランティア説明会	大阪市各区へ出向いての説明会の開催。	災害ボランティアに関心があるが、アクションにつながない人を中心に、被災地に行く前に、災害ボランティアの基礎知識や活動内容などを学べ、知ることができる機会を提供する。	大阪市受託
12	災害ボランティア入門セミナー	・災害ボランティア活動に関する基礎的なセミナーの開催。	災害ボランティア活動をやってみたい人を対象に、現地に行くのに必要な準備や安全対策、被災地での具体的な場面におけるボランティア活動について、講義とワークショップで学ぶ機会を提供する。	大阪市受託
13	将来の地域共生社会を担う人材の育成	・大阪市内の中高生への福祉教育プログラムの提供。 ・大阪市内の学校に通う高校生への福祉教育。 ・関西の福祉や社会貢献活動に関心のある大学生の福祉教育プログラムへの参画。	大阪市内在学の学生（主に中学・高校生）が、自分自身も地域共生社会の住民のひとりとして支え合うことの大切さを理解することを目的として、大学生の参画を得ながら、訪問授業、様々な違いを持つ人と一緒に取り組める福祉・社会貢献活動等のプログラムを提供する。	大阪市受託

事業名	事業計画	事業目的	財源
14 「福祉ボランティアコーディネーション業務委託」評価委員会	「福祉ボランティアコーディネーション業務委託」評価委員会の開催。	第三者の評価委員から客観的に事業への助言や方向性についての示唆を得ることで、事業の質の担保・向上を図る。	大阪市受託
15 ボランティアスタイル	・新規プログラム開拓。 ・既存団体とのプログラム見直し。 ・SNSなどを活用した効果的な広報の検討。 ・新たなチームメンバーの獲得。	ボランティアに関心はあるがどのように始めたらよいかわからない人や、まずは体験したいという人が、自分に合った活動を見つけるきっかけをつくり、ボランティア活動への参加のすそ野を広げる。	自主・大阪府共同募 金会「NHK歳末たす けあい助成金」
16 関西人のためのボランティア活動情報ネット（KVネット）	・「関西人のためのボランティア活動情報ネット（KVネット）」によるボランティア情報の発信。 ・メルマガ「関西人のためのボランティア情報」の編集・発行。 ・マスコミへの活動情報提供（読売新聞わいず倶楽部、毎日新聞）。 ・KVネットの利用分析等の実施・対策の検討。 ・利便性向上のためのトップページのデザイン改修。	・インターネットを活用したボランティアコーディネーションのシステムを運営し充実させる。 ・サイト掲載情報を二次活用し、より募集情報に触れる機会を提供する。	自主・大阪府共同募 金会「NHK歳末たす けあい助成金」・事 業指定寄付「KVネッ ト運営寄付」
17 【行動宣言】【拡充】インクルーシブボランティア	インクルーシブボランティアの考え方や視点、コーディネーションのポイントなどをまとめたハンドブックを作成し、大阪府内の社協、福祉施設、NPO等に配布する。パンフレットの編集については、学識経験者や当事者、現場のコーディネーターで構成される企画会議を開催して行う。	障害があるなど、ボランティア活動に参加するのに制約がある人も参加できる「インクルーシブボランティア」を推進することを目的として、コーディネーターが現場で役立てられるようなノウハウを共有する。	大阪府福祉基金 地 域福祉振興助成金
18 ボランティア保険	ボランティア保険の受付事務。	パートナー登録団体への活動支援の一環として、ボランティア保険の受付事務を行い、各団体の活動を支援する。	自主
19 配架チラシ等の整備および活性化	・チラシ、冊子、ポスター等の配架ルールを再整理する。 ・届いた情報を速やかに配架できるようにする。 ・配架用郵便物のボックスに親書が混じらないような仕組みづくりを検討する。	「CANVAS谷町」に届いたチラシ・ポスター等を来館者が見やすくなるよう配架し、市民活動・ボランティアに興味を持って参加する動機となるよう促す。	自主
20 ボランティアコーディネーター養成講座（新任向け）	第49期「ボランティアコーディネーター養成講座（新任向け）」の企画・実施。	新任ボランティアコーディネーターが基礎的な理念から具体的な実践ノウハウを学び、日々のボランティアコーディネーションに生かせるよう、講義や演習での教育プログラムを提供する。	自主（共催：日本ボ ランティアコーディ ネーター協会）
21 ボランティアコーディネーション力3級検定・直前研修	「ボランティアコーディネーション力3級検定」直前研修と検定の実施。	ボランティアコーディネーションに関する正しい知識の普及啓発を行い、広く理解を促す。	共催・受託（日本ボ ランティアコーディ ネーター協会）
22 コーディネーション戦略タスク	2023年度に新設される「参加支援委員会」への移行に向けて、コーディネーション事業の現状と課題を分析し、協会らしいコーディネーション事業のあり方について協議、提案する。	※VNC運営委員会休止中の時限的なタスクチームとして設置。 ボランティア活動への参加の入り口づくりや、今後、ボラ協全体でのコーディネーションのあり方等について検討する。	自主
2. 市民力向上（市民学習・研修）事業			
23 CANVASよるがく	・「CANVASよるがく」、「CANVASカフェ」（会員自主企画）の開催。 ・2022年度半ばより、金曜夜の会議室確保が難しい状況となったため、曜日や時間帯など従来とは違う開催方法を模索していく。 ・組織改編の議論も見据えながら、運営体制も見直していく。	社会課題に気づき、協会のミッションに賛同する仲間（個人会員等）が増え、市民活動の広場と砦としての協会とCANVAS谷町が活性化することに加え、財源確保にも寄与する。	自主
24 【行動宣言】次世代ソーシャル・イノベーター育成プログラム（NextSIP）と対話交流会（SIPCafe）	大阪市内を中心としたおおむね15歳から22歳までの生きづらさを抱える子ども＆若者25人を対象とした「次世代ソーシャル・イノベーター育成プログラム（NextSIP）」を企画実施する。学習内容は、企画力・リサーチスキル・巻き込み力・情報発信・会計基礎などで、約1か月間に全12回のオンライン・学習プログラム（最終回はアイデアピッチ）。また、参加者への事後フォローアップとしてオンライン・対話交流会「SIPCafe」を年数回開催する。事業実施にあたり、児童福祉施設・団体など連携機関を増やして、対象となる子どもたちにリーチできるようにする。	生きづらさを抱える子どもの将来に向けた意思決定支援に注力するとともに、自分たちの身近な地域課題を主体的に解決できる人材育成をねらいとしたプログラムを開発・提供する。また、当事者の子どもたちに、同世代で交流できるメタバース上の居場所（プラットフォーム）を提供することで、子どもたちが勇気づけられ、生きがいを見出せるよう機会を提供する。	大阪府共同募 金会 「令和5年度地域の子 どもの福祉のための 助成」に申請予定
25 講師派遣	・協会の職員やボランティア（外部講師）が、依頼に応じて出向く。 ・職員やボランティア講師の人数を増やす。 ・講師謝礼の単価アップ。 ・講師紹介などのホームページ掲載情報を充実させる。 ・協会が持つコンテンツ（インクルーシブボランティア、災害時のスペシャルニーズ等）をパッケージ化して売り込む。	これまで協会が蓄積してきたボランティアコーディネーションの専門性や市民参加のまちづくり、NPO支援のノウハウ等を伝え、市民活動の推進と支援につなげる。協会を支える大きな収入源として、財源を確保する。	自主
26 インターンシップ・職場体験の受け入れ	大学のインターンシップ生や企業の職場体験の受け入れ（大阪大学、甲南女子大学、（株）エンカレッジなど）。	協会の大事にしている事業である「人づくり」を目的として、学生等に協会事業に関わる経験を通して、ボランティアコーディネーションや社会課題にふれるきっかけづくり、多様性への理解などを伝える機会とする。	自主
3. NPO・団体支援事業			
27 NPO運営などの相談対応、コンサルティング	NPO運営などの相談対応、コンサルティングの実施。	NPOの運営に関する、主に参加促進に関する相談に対し、個別に相談対応もしくはコンサルティングを行い、その課題解決のサポートを行う。	自主・大阪府共同募 金会「NHK歳末たす けあい助成金」
28 はじめてのNPO説明会	「はじめてのNPO説明会」の開催。	NPOの設立やNPO法人格の取得を目指している人・団体向けに、説明会形式でノウハウや考え方を伝え、相談者が次のステップに踏み出せるようサポートを行う。	自主・大阪府共同募 金会「NHK歳末たす けあい助成金」
29 NPO関連セミナー	NPO関連セミナーの実施。	市民活動・NPO関連の情報提供やノウハウ獲得を目的としたセミナーや、時宜に応じた講座等を開催し、関係団体等の学びを深める。	自主・大阪府共同募 金会「NHK歳末たす けあい助成金」

事業名	事業計画	事業目的	財源
30 メルマガ「NPOほいす」	・メルマガ「NPOほいす」の編集・発行。 ・配信方法の変更に伴う、より読みやすい配信内容への変更。	協会主催事業の情報、助成金・支援制度の情報、パートナー登録団体の情報（主催行事や人材募集など）の提供を行い、メルマガ登録者に情報に触れる機会を与えるとともに、それらの情報をPRする。	自主
31 パートナー登録制度	・「パートナー登録」制度の運営。 ・パートナー登録団体との連携企画の模索。	協会が推進する市民参加性、社会提言性、情報公開性という3つの視点を大事にするNPOを、市民活動促進のパートナーと位置づけて連携を図る。	自主
32 寄付・寄贈のコーディネート	随時受け入れ態勢を整え、寄贈の依頼があれば速やかに対応し、継続して、他団体への寄付・寄贈を行うことで、市民活動への市民参加の促進を支援する。	パートナー登録団体を対象に、企業や個人が不要となった物品の寄贈や、寄付の申し出をつなぎ、団体の必要備品や財源の獲得に貢献する。	自主
33 助成金・賞の推薦協力	助成金・賞の推薦協力の実施。	パートナー登録団体を対象に、団体が申請したい助成金・賞に対して推薦コメント等を提供し、助成金採択や受賞に貢献する。	自主
34 後援名義の提供・協力	後援名義の提供・協力。	希望する団体向けに、後援団体として協会名を記載する後援名義の提供・協力を行い、PRに協力する。	自主
35 【行動宣言】場を必要とするセルフヘルプグループ等への支援	財源が厳しいセルフヘルプグループ等からの相談に対し、随時対応。	場を必要とするセルフヘルプグループ等への支援を目的とした「自助グループ利用応援募金」で集まった寄付を元に、必要とするセルフヘルプグループへ助成を行う（パートナー登録料の半額助成）。	自主
36 市民活動スクエア「CANVAS谷町」	・会議室、コラボエリア、ワークスペースの貸し出し提供。 ・CANVAS谷町10周年企画の実施。 ・紙折り機購入寄付の継続募集。 ・利用団体同士の交流の機会についての検討。	市民活動がより推進されるために必要な機能（デスク、ロッカー、レターボックス、貸会議室、テレワークブース、印刷機など）を安価で貸し出すとともに、拠点として団体同士の交流等を生み出していく。	自主
37 魅力ある「CANVAS谷町」づくり事業	・アソシエーター紹介についての内容検討。 ・CANVAS谷町10周年記念掲示検討（掲示物および動画の作成）。 ・パートナー登録団体紹介カードのレイアウト変更、団体情報更新。 ・CANVAS谷町の災害時の緊急避難経路の表示、掲示の検討。 ・カフェコーナーの掲示見直し。 ・CANVAS谷町の販売書籍の見本の見せ方をリニューアル。	市民活動拠点として人・団体の繋がり促進（親しみやすい「CANVAS谷町」の実現）およびCANVAS谷町の利用価値向上を目的とする。	自主
38 NPO支援戦略タスク	期限付きで、2ヶ月に1回程度会議を開催する。 NPO支援戦略タスクチームでは、協会らしいパートナー登録団体支援のあり方について協議、提案する。	※VNC運営委員会休止中の時限的なタスクチームとして設置。 ・協会の強みを生かしたパートナー登録団体への支援について検討する。	自主
4. 災害支援・防災事業			
39 【行動宣言】災害発生時の被災地支援	・各地の被災状況に関する情報収集。 ・必要性に応じて被災地へのスタッフの派遣など支援活動の実施。	被災者・被災地のスムーズな復旧・復興のためのささえあいをつなぐことを目的に、職員とボランティアをチームにして、実災害時の災害ボランティアセンター等に運営支援者として派遣する（災害発生時）。	自主・事業指定寄付「災害時初動対応準備寄付」
40 【行動宣言】災害時のスペシャルニーズ支援	・災害時の要配慮者（スペシャルニーズをもつ人）支援に関する啓発活動。	災害時に孤立しがちな「スペシャルニーズをもつ人」を支える仕組みを広め、深める。	自主・大阪府共同募金会「NHK歳末たすけあい助成金」
41 【行動宣言】【拡充】【新規】福島県県外避難者への相談・交流支援事業	・（一社）よりそいネットおおさかが受託する「福島県県外避難者への相談・交流支援事業」に連携して取り組み、情報発信と交流会を担当する。 ・具体的には、チラシやホームページの作成、支援団体への訪問、交流会の企画運営等を行う。	関西に暮らす広域避難者と出会い、避難生活において必要だった支援を知ることで、大阪・関西が大規模災害で被災したときの備えの一助とする。	ふくしま連携復興センター（れんぶく）受託事業（よりそいネットおおさかからの再委託）
42 【行動宣言】災害時に動ける人づくりと実災害での支援事業	・平時の情報共有および、災害情報、活動などに関する情報交換。 ・災害発生時、チームとして災害支援活動に参加。【随時判断】 ・災害支援委員会との連携による、災害支援の研修やイベント、訓練への参加。	・災害支援についてのアソシエーターの理解を深め、育てる（参加拡大）。 ・実災害での支援活動を行う。	自主
43 災害支援委員会	・災害時のスペシャルニーズ支援の仕組みの深化と啓発。 ・実災害時にSNによりよく対応するための大阪における支援団体のネットワークの強化。 ・協会の災害支援にかかる体力の強化（人材、資金、情報システム等）。	多様な主体の連携と市民の力で「だれひとり取り残さない災害支援」を目指す	自主・大阪府共同募金会「NHK歳末たすけあい助成金」
5. 企業市民活動推進センター事業			
44 企業市民活動などの相談対応、コンサルティング	・リンクアップフォーラム会員企業を窓口、ボランティア活動の企画相談。助成金事業等へつなげる。 ・有料相談事業の拡大（継続）。 ・企業からの相談に対して課題解決のサポート（個別に丁寧な相談対応、コンサルティング等）を行うことで、今後の事業拡大に結びつける。	CSR、企業の社会貢献、サステナビリティ、ESG、SDGs等、企業市民活動全般に関する相談に対し、個別に相談対応や説明会の開催、もしくはコンサルティングを行い、その課題解決をサポートする。	自主
45 【拡充】企業受託事業（研修企画、活動先のコーディネート等）	・企業受託事業の円滑な実施。 ・各事業での、ボランティア・市民活動への理解促進。	企業の研修企画や活動先のコーディネーションを行うことで、企業のボランティア・市民活動への理解を進める。	各企業からの受託等
46 積水ハウスマッチングプログラム	・「積水ハウスマッチングプログラム」協働事務局として、2023年度助成、2024年度助成に向けて必要な役割を担う。	積水ハウスが行うマッチングギフト形式の助成の事務局を協働で実施。ESG経営のSocialの活動の一環として、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動、及び国連が進める社会課題の解決（SDGs）につながる市民団体の事業を応援する。	積水ハウス株式会社受託

事業名	事業計画	事業目的	財源
47 阪急阪神 未来のゆめ・まち基金	<ul style="list-style-type: none"> 阪急阪神HD(株)が主催する「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラム（第15回団体助成等、第16回助成制度企画）の助成事務局。 過去助成団体とグループ企業の出会い・連携をねらいとする「ゆめ・まちオンライントーク」の企画運営（年3回）。 	阪急阪神ホールディングスの社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラムの事務局として、阪急阪神沿線で「地域環境づくり」や「次世代の育成」に取り組む市民活動団体への助成を行う。	阪急阪神ホールディングス株式会社受託
48 阪神高速道路 未来（あす）へのチャレンジプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 「阪神高速道路 未来（あす）へのチャレンジプロジェクト」助成プログラム事務局の運営。 第1回～2回の課題を踏まえて、第3回の事業の維持・拡大のため、丁寧な対応とコミュニケーションを十分に図りながら、成果へ結びつける。 同じ助成事業を実施している団体同士、阪神高速グループ各社とつながる機会として「座談会」を実施する（第2回助成から実施予定）。 	市民団体との協働による社会課題の解決に取り組み、地域・社会の持続的発展及びSDGs達成へ貢献することを目的とする。	阪神高速道路株式会社受託
49 【行動宣言】【拡充】タケダNPOサポートプログラム（第2期）	<ul style="list-style-type: none"> 武田薬品工業との協働による長期療養の子どもや家族を支援するNPOの組織基盤強化支援。 ハンドブックの作成および配布、啓発イベントの開催 	関西に拠点を置く保健医療分野の市民活動団体が、長期療養の子どもたちとその家族が直面している課題の解決に向けて、持続性・発展性のある支援ができるよう、広く啓発を行うと同時に、希望する団体に伴走型の支援を行う。加えて、長期療養の子どもたちへの理解や支援のすそ野を広げることが目的として、長期療養の子どもを対象に自団体が持つ子ども支援プログラムを提供できる市民活動団体を発掘し、団体同士のネットワーキングを行うと同時に、協働のきっかけをつくる。	武田薬品工業株式会社からの寄付
50 【行動宣言】SAPジャパン社会貢献プログラム支援	<ul style="list-style-type: none"> 社会的孤立状態になりやすい子どもたちへのIT支援事業の実施。 	SAPジャパン西日本支社のCSRプロジェクトとして、社会的孤立状態になりやすい子どもたちに、社会人との交流や学びの機会を提供し、将来への希望を持つことができるよう、IT支援事業を行う。	SAPジャパン株式会社からの寄付
51 【行動宣言】【新規】AWS InCommunitiesプログラム	<ul style="list-style-type: none"> 大阪市の地域のニーズに対応した分野（ハイパーローカルニーズ）での事業を実施する。 具体的には、ヤングケアラー、シングル家庭、困窮家庭、長期療養中などの子ども・若者などを対象としたレスパイトを目的とした「焚火を囲む」企画を2023年度中に3回程度実施する。 	ヤングケアラー、シングル家庭、困窮家庭、病気を抱えている等、子どもらしい自由な遊びの時間や、自分を見つめなおす一人の時間を持つことが難しい子ども・若者たちを対象に、レスパイト（＝日常から離れてちょっと休むための機会）を提供することを目的とする。	Amazon Web Service（AWS）からの助成
52 【行動宣言】【拡充】フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）	<ul style="list-style-type: none"> 「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）」の企画開催（偶数月第2火曜）と幹事会の運営。 テーマを設けてNPO/団体に広く声掛けし、企業と一緒に意見交換できるオープンフォーラムを開催。2023年度はPPCLF30周年の記念企画として「リンクアップフォーラム30周年記念オープンフォーラム」を10月10日に開催予定。 	企業のCSR・社会貢献・サステナビリティ・ESG・SDGsに関する最新のトピックスを学ぶとともに、各企業の担当者が連携しながら情報交換を行い、現場での"本音"の悩みを出発点にした実践的な学びを進める。	自主・会員企業団体の会費
53 「うめきた朝ガク運営委員会」への参画と朝ガクの企画実施	<ul style="list-style-type: none"> 「うめきた朝ガク」を毎月第4木曜日7:30-8:30に企画運営。 「うめきた朝ガク運営委員会」を4・7・10・1月の第2木曜日7:30-8:30に事務局を運営。 	出勤前、通学前等の時間帯に集い、ソーシャルな課題や話題を広く知り、共有することを目的に開催。	自主
54 企業市民活動推進センター（CCC）運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○2023年度に取り組む重点ポイント ・NPO連携企画の定着。 ・SDGsにフォーカスした新規企画の立案、実践。 ・CCCメンバーの拡充。 ○他チームとの協働（協会内のヨコ連携） ・新設（3つ）横軸の会議体への積極的参画。 ○企業内ボランティア人材のつながりを生かす取組み（独自企画や交流の場など） ○ホームページ（CCC）の改良/見直し ○リンク30周年企画の立案、実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業が社会貢献することが当たり前の社会をつくる。 ・企業の社会貢献の価値再発見。 ・企業とNPOセクターとの協働を促進する。 	自主
6. 情報・出版・シンクタンク事業			
55 市民活動総合情報誌「ウォロ」	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォロ定期購読料（3,300円→3,600円）、単品販売（550円→650円）の値上げを実施。 ・特集に力を入れる。福祉テーマ年2本。分野横断的で協会講師派遣に生せるテーマ年1本。 ・特集やコーナーに連動したセミナー等を企画し、ウォロの認知度向上、販売増につなげる。 ・読者およびウォロ発行サポーターの拡大による支出超過の縮小。 ・特集、トピック、うおろ君などに外部識者の参加を促進する。 ・編集委員の拡充。取材執筆にあたる外部協力者を増やす。 ・SNSの強化。 ・定期購読者増に向けた地道なPRを継続的に行う。 ・広告営業の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分野・セクターを越えた社会的課題に「市民が主体的に関わることの大切さ」を伝え、適切にオピニオンを発信し、必要不可欠な情報提供を行う。 ・新しい課題の発見や提言、情報提供を通してボランティア・NPOを一步深め、市民活動を促進して、市民自治と民主主義を成長・発展させることを目指す。 	自主・購読料・広告料・大阪府共同募金会「NHK歳末たすけあい助成金」・事業指定寄付「ウォロ発行サポーター」
56 「ウォロ」連動セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・誌面関連セミナーなど連動企画を3回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォロが発信する「社会課題に市民が主体的に関わることの大切さ」というオピニオンを、セミナーという参加の場を設定することで双方向に共有し、さらに深める。 ・ウォロの認知度を高め、定期購読とテーマごとの単品販売につなげる。 ・参加と討議を通じて市民活動を促進し、市民自治と民主主義を成長・発展させることを目指す。 	自主・参加費・大阪府共同募金会「NHK歳末たすけあい助成金」

	事業名	事業計画	事業目的	財源
57	【行動宣言】出版	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティア研究」第5号の発行（7月）。 ・中央法規出版刊『福祉小六法2023』の編集協力。 ・「学生のためのボランティア論」改訂に向けた編集、制作作業。 ・在庫書籍の販売促進。 	他の出版社からは発行されにくいボランティア・市民活動に関するオピニオン等をまとめ、書籍として出版する。販売収入は協会事業の推進のために役立っている。	自主
58	ボランティア・市民活動ライブラリーの管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ライブラリーは、定期的な蔵書収集と整理、ボラスタプログラムとの連携（年3回）、職業訓練生の受入れ（6人程度）、蔵書・資料の寄贈呼びかけ（メルマガばいす掲載ほか）、新HP「図書の貸し出し」ページを活用した認知度向上とイベントの企画実施（CANVAS谷町への人流復活を見越しながら）。 ・新聞切り抜きは、切り抜いた新聞記事のPDF化、PDFのデータベース公開（1980年代から、会員限定公開）を進める。 ・財源獲得（2023年度目標5万円）は、「市民活動の歴史的資料収集・整備寄付」の呼びかけと市民参加型の古書寄贈・換金企画「チャリティ古本」の呼びかけ（分野を漫画や美術書、映画関係等に絞る、古書店巡りと出張買取と併用で）を進める。 ・ウォロのバックナンバーをCANVAS谷町に配架する、全号の目次を整備する。 	これまでの市民活動の歴史的資料を集めて散逸を防ぐとともに、現代の市民活動を記録していき、市民活動の研究基盤となることを目指す。	自主、事業指定寄付「市民活動の歴史的資料収集・整備寄付」
59	真如苑市民活動公募助成	<ul style="list-style-type: none"> ・「多摩地域市民活動公募助成事業」および「自立援助ホーム支援助成事業」の助成金事務局。 ・「社会貢献アドバイザー委員会」および「有識者との意見交換会開催事業」の事務局。 	地域発展の一助となることを願い、幅広いニーズに対応しながら市民活動を応援するための助成事業を行う。	真如苑受託
60	増補改訂版 日本ボランティア・NPO・市民活動年表	「読み解く会」の後継企画を検討中。	「市民活動年表」の周知、普及を図り、年表が日本の市民活動を支える基盤の一つとなることを目指す。10年後を想定する再改訂版に向け、編集委員や執筆陣の候補を洗い出し、選任する。	自主（民間助成金）
61	【行動宣言】『市民セクターの次の10年を考える』研究会	次のテーマについて検討、策定する。	市民セクターの次の10年を展望する視座と市民セクター全体のバージョンアップをはかる戦略を明確化することを目指す。	自主・大阪府共同募金会「NHK歳末たすけあい助成金」
62	ボランティア研究 調査セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ●2023年度のねらい ・ニーズの背景にある課題を捉え、それを科学的に分析する「社会調査」の手法や視点を学ぶ機会とする。 ・実践者と研究者がパートナーシップを組み実績をあげている事例を取り上げて学ぶ。 ・活動に付随するデータの収集と分析、ストーリー化、支援者へのメッセージ作成、アドボカシーへの活用などに関し、実践者と研究者の両面からひもとく内容にし、参加者の実践の向上に寄与するよう仕立てる。 ●セミナー概要 「リサーチ&アクションセミナー『市民活動の実践を科学する力をつける』～科学的調査で活動バージョンアップ-実践者と研究者の協力はこんなにすごい！」 ・開催時期：2023年8月下旬以降、11月くらいまで、組織内外で同種行事が重ならない時期を設定。 ・実践団体候補：虹色ダイバーシティ（村木さんまたは担当者）と研究者。 ・方法：対面 ハイブリッドの同時開催（後日視聴あり）。 ・対象：研究者とパートナーシップを組みたい市民活動団体、実践者とパートナーシップを組みたい研究者、関心のある人等。 	市民団体の職員・理事等を中心とする市民セクターの担い手の調査・研究の力量向上を図る。	自主
63	ボランティア研究 研究所運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動年表を「読み解く会」の後継シリーズの企画と開催。 ・市民セクター研究会の次なるテーマの選定。 ・市民セクター研究会第11～16回をまとめた「ボランティア研究」第5号の発行。登壇者執筆の原稿と共に、社会的孤立解消に向けた「提案」を収録する。 ・若手研究者が集う「プロジェクト」の企画開発。 	個人および組織のボランティアの思想・原理に依拠するボランティア活動／市民活動は、21世紀日本社会の平和、民主主義、市民社会のありかたを左右するであろうとの認識と、国際的視野に立ちつつ、日本の市民活動あるいはボランティア活動を支える原理や理念のさらなる追求と、それらの実践的プログラムの開発など理論的科学的な研究を目指す。	自主・大阪府共同募金会「NHK歳末たすけあい助成金」
64	“裁判員ACT”裁判への市民参加を進める事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「裁判員ACT公開学習会2023」の企画実施（12/2土午後）。 ・【新】「裁判傍聴記・裁判員体験記」コンテストの募集（-12/31日必着）。 ・「傍聴カフェ」の実施6回（5・6・7・9・10・11月の午前・午後）。 ・裁判員経験者の話を聴く会（適宜）／ミニ学習会（適宜）／オンライン企画5回（傍聴カフェオンラインの後継企画；7/4火夜・9/5火夜・11/7火夜・1/9火夜・3/5火夜）の企画実施。 ・ACT通信の発行（情報のある月の月初）／ACT公式FacebookおよびTwitterの運用。 	市民が自分の問題として司法について考え、様々な問題解決に取り組む社会をめざし、市民の、市民による、市民のための司法を実現する。	自主・大阪府共同募金会「NHK歳末たすけあい助成金」・事業指定寄付（「裁判傍聴記・裁判員体験記」コンテスト）
7. 国内外のネットワーク推進事業				
65	「ボランティア推進団体会議（民ボラ）」への参画	<ul style="list-style-type: none"> ・「第40回ボランティア推進団体会議（民ボラ）in山梨」（7/22土-23日）の企画運営。 ・「ボランティア推進団体会議（民ボラ）」世話団体会議への参画（年4回程度）。 	ボランティアを推し進めるため、ボランティア活動推進団体やNPO支援センターのミッションや運営のあり方を考え、諸課題を協議する機会を提供する。	自主（参加費）

	事業名	事業計画	事業目的	財源
66	「関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会」への参画	・関西地区大学ボランティアセンター連絡協議会への参画。	学生のボランティア活動推進を図ることを目的として、大学ボランティアコーディネーターが集い、事例検討や情報交換を行う場に参画する。	自主
67	「関西NPO支援センターネットワーク（KNN）」への参画	・関西のNPO支援センターとの情報共有と連携。	近隣の間支援組織と平時時はもちろん災害時にもスムーズな情報共有や連携を図ることを目的として、定期的に情報交換を行う。	自主
68	近畿ろうきんパートナーシップ制度	・NPO支援センター連絡会への出席・共催企画の実施	地域課題の解決や災害支援活動の充実を目的として、近畿労働金庫と協働体制を構築する。	近畿ろうきんNPO パートナーシップ制度
69	「震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）」への参画	・震災がつなぐ全国ネットワークでの情報共有と連携。	災害支援をスムーズに行えるよう、多様な関係団体との関係構築と協働を目的として、ネットワーキングに参画する。	自主
70	【行動宣言】「3.11 from KANSAI実行委員会」への参画と震災復興応援イベントの企画実施	・震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2024」の企画運営（2024年3月9日（土）午後、大阪公立大学文化交流センターホールにて開催予定（オンライン開催有無は今後検討））。 ・「3.11 from KANSAI 実行委員会」の事務局運営。	「おたがいさま」「忘れない」「関西でできること」をテーマに掲げて、2011年度より年に1度開催。東日本大震災の被災地や全国で避難生活を送る方々に思いを寄せ、シンポジウムや写真展などのイベントを通して「関西から何ができるのか」を考えることを目的とする。	自主（協賛金・寄付金）
71	【行動宣言】「おおさか災害支援ネットワーク（OSN）」への参画	・おおさか災害支援ネットワーク（OSN）の定例会および要配慮者部会、情報部会の企画実施（世話役として参画）。 ・ウェブページ作成	災害時に大阪府内での災害支援をスムーズに行えることを目的として、平時からの多様な主体との関係構築ができる場づくりを行う。世話役として定例会と専門部会の企画・運営を行う。	近畿ろうきんNPO パートナーシップ制度／令和そなえ基金
72	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（愛称「OCoNoMiおおさか」；Osaka Co-op/Non-profit Multisectoral Council）	・2023年度OCoNoMiおおさか「幹事会」（年5回程度）および「委員会」（7/11火）の出席と情報交換。 ・「2023年度市民共創の森植樹会」の企画参加（4/27木）。 ・「2023年度国際協同組合デー記念講演会」の企画実施（7/11火）。 ・「2023年度関西大学商学部寄附講座『大阪の支えあいの経済を考える』」の企画実施（秋学期；2023年9月～2024年1月）。 ・「2023年度魚庭（なにわ）の海づくり大会」への企画出展（11/5日予定）。 ・「第31回ワン・ワールド・フェスティバル」への企画出展（2月予定）。 ・「OCoNoMiおおさか若手職員行動研修」の企画実施（予定）。 ・OCoNoMiおおさか構成団体の主催事業への積極的参画。	SDGs等の社会的課題への取り組みを連携して進めるために2020年7月に設立。	自主（構成団体の負担金制で運営）
73	「地域こども支援団体連絡会」への参画	「地域こども支援団体連絡会」への参画。	地域住民と社協、地域団体、民生委員・児童委員、社会福祉施設、企業・団体などが一体となって、こどもの食や学習の支援をはじめ、こどもたちが身近に行くことができる居場所づくりを推進し、活動者や応援者のネットワークづくりを行う。	大阪市からの補助金、社会福祉施設・企業からの支援等
74	役員などの派遣、審議会、研究会、助成審査会、学会役員などへの参画	・役員などの派遣：早瀬理事長、永井事務局長らを計11組織へ組織派遣。 ・審議会、研究会、助成審査会等：早瀬理事長、永井事務局長、江瀬事務局次長、青山主幹を計約30件に組織派遣。 ・学会役員等：早瀬理事長、永井事務局長が1学会に個人資格で就任。	理事長、常務理事・事務局長、事務局員が審議会、研究会、助成審査会、学会役員などへに参画し、貢献するとともに、協会の認知度を高める。	自主
8. 人的な事業推進体制の充実、および財源の確保と財政運営				
75	個人会員・個人賛助会員	・会費の納入依頼（4・9・12・3月頃）。 ・定期総会の案内送付（4月）。 ・会員証の発行。 ・会員メーリングリストの運用、会員情報の管理等。 ・入会、退会の対応。	協会を支える個人会員・個人賛助会員の制度を維持し、協会に共感し支えてくれる個人の裾野を広げる。	個人会員・個人賛助会員からの会費
76	会員誌「CANVAS NEWS」	・会員誌「CANVAS NEWS」の定期発行（年6回）。 ・発行後も使える誌面作りをする（①協会事業をわかりやすく取り上げる、②記録として残せる内容にする、③過去の協会の歴史を取り上げる、④会員・アソシエーターに登場してもらおう等）。 ・誌面と、インタビュー詳細をホームページに掲載。 ・誌面、ホームページ、SNSの活用した広報を展開。	・会員や登録団体に、協会の事業をわかりやすく伝える。 ・協会をよく知らない人に、協会の魅力を伝える。	自主
77	団体賛助会員・非営利賛助会員	・新規会員及びメンバーの獲得（候補企業の選定と候補者を絞り込み勧誘）。 ・賛助会員：維持／拡大。 ・チームとの協働（ウォロ／CCC）。	協会の貴重な財源である企業・団体賛助会員への会費依頼を行うとともに、会員とのコミュニケーションを図ることで協会の支援継続を目指す。	団体賛助会員・非営利賛助会員からの会費
78	アソシエーター研修およびアソシエーター活性化のための企画実施	・アソシエーター交流会は、旧歓送迎会・忘年会の要素を兼ねて、年2回開催する。 ・アソシエーター基礎研修は、ワークショップを取り入れた研修を年1回開催する。また、必要な人が必要な時にアソシエーターの基礎（理念、事業、歴史、参加システム、財政）を学べる動画を制作・配信する（各10分程度を想定） ・ボランティアことはじめ：アソシエーターがどのようにして「ボランティアのはじめの第一歩」を踏み出したのかを紹介し、「参加」を促す「ボランティアことはじめ物語～ボランティアはじめの一歩～」で6人を紹介する（掲載ペースは随時）。	アソシエーターに協会の理念が浸透し、チームや委員会の枠を越えた協働が生まれる意識を作り続けることを目的とする。	自主

	事業名	事業計画	事業目的	財源
79	寄付（一般、事業、災害）	<ul style="list-style-type: none"> ・一般寄付の募集。 ・事業指定寄付の募集（ウォロ発行サポーター寄付、「紙折り機」購入応援寄付、災害時初動対応準備寄付、歴史的資料収集・整備寄付、「KVネット」運営寄付）。 ・寄付控除領収書およびお礼状の発送。 ・寄付者名簿の整備。 ・寄付控除領収書の発行作業の見直し。 	協会、および協会の事業に共感して寄付として支援してもらう。	寄付
80	大阪府共同募金事業	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度の助成金300万円を申請、確保。 ・2023年度計画の確実な実施。 	共募助成の対象事業であるウォロやKVネットを通じて、市民と双方向の情報・参加アクセスを実現し、自主事業の講座等によってボランティア・市民活動の裾野を広げる。	大阪府共同募金会 「NHK歳末たすけあい助成金」
81	広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBの運用体制の確立、成果の検証と改善（マニュアル化・ルール化、日々の運用、運用状況のチェック、効果検証）。 ・WEBと連動したSNSを活用した情報発信の検討・運用（SNS発信の現状分析、目的の明確化、発信担当者の明確化、効果的なSNS運用）。 ・ボラ協の魅力を伝え「参加」を増やすためのパンフレットの企画・作成（目的・ターゲット・発信内容などの明確化、具体的なデザイン）。 ・プレスリリースの効果的な発信と運用の実現。 	協会の事業目標達成、および収入拡大に貢献するホームページを戦略的に運営し、より効果的な広報・情報発信のあり方を考える。	自主
82	協会BCP（事業継続計画）の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度に更新した協会BCPをもとに、協会の災害支援にかかる体力の強化（人材、資金、情報システム等）、BCPの継続的な改善を検討する。 	大阪が被災したとき、災害時モードでの事業継続および災害救援活動をすみやかに始動することを目的に、予め意思決定方法や人材と資金の配分計画、情報システム等の整備をBCP計画および災害支援方針に定める。	自主
83	常任運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・協会事業・財政全般、及び協会が発信すべきオピニオンに関し、ボランティアスタッフによる日常的な経営協議の場として、毎月第3火曜日19:00-21:00に対面とオンラインツールの併用による会議の場を設ける。 ・協会三大会議（①定期総会、②創出会議、③計画会議）を企画運営し、アソシエーターの参画を促す。 ・2022年度に引き続き、①「組織改編検討タスク」、②「二大会議検討タスク」を設置する。また、両タスクの成果を受け、4月から新組織に向けた試運転期間を設け、7月頃に新組織を発足させる。連動して二大会議の改革を進める。 ・2023年度計画の重点方針（①孤独・孤立対策に向けたボランティア・市民活動を応援する、②各世代のボランティア活動への参加障壁を除き、参加を促進する、③市民感覚に基づく自由な発言を進める、④2025年の創立60周年に向けた新ビジョンの検討着手と新組織を生み出す1年に）を実行に移せるよう全体統括を行う。 	理事会の委嘱を受け、その日常的業務（法人業務の決定、資産の管理のほか、協会事業全般にわたって経営管理を行う）を代行し、特に長期的展望にたった事業計画を立案するとともに、経営的視点から対外的な諸問題に対処するために設置。 ※2015年度以降、財務・基金運営委員会（休止中）の機能を吸収	自主
84	役員会等（理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、監事会）	<ul style="list-style-type: none"> ・5月：監事監査。 ・6月：第104理事会、第85回評議員会、第105回理事会。 ・10～11月：第106回理事会。 ・3月：第107回理事会、第86回評議員会。 ・6月理事会、評議員会にて、理事・監事の改選。 ・評議員選任・解任委員会は、必要に応じて開催。 	社会福祉法人として、法に則った運営を行う。	自主